

『ゴールデンランバー』

2010年／日本／中村義洋監督作品

幸せな気持ちになれる
「信頼」してくれる人間の言葉

会員 新原 剛 (63期)

『ゴールデンランバー』
DVD 発売中
4,935円(税込)
発売：アミューズソフト
©2010『ゴールデンランバー』
製作委員会



本作品は、伊坂幸太郎原作の、首相暗殺犯に仕立て上げられた男の逃走劇を描いた作品である。伊坂作品の映画化は、いずれも素晴らしい出来のものばかりであるが、本作もやはり非常に面白い作品であった。

青柳（堺雅人）は、大学時代の友人・森田（吉岡秀隆）に呼び出されたところ、近くでパレード中の首相が暗殺され、犯人として警察に追われることになる。青柳を犯人として仕立て上げるための策略が周到に張りめぐらされており、マスコミも青柳を犯人として報道する。

青柳は、大学時代の恋人・樋口（竹内結子）や会社の先輩・岩崎（渋川清彦）らの手助けを受けて逃亡を続けるのであるが、そんな彼の支えとなるのが「信頼」である。

青柳を犯人として大々的な報道がなされる中、岩崎は、「どうせ、お前じゃないんだろ。」とあっさり言い放つ。青柳の父親（伊東四朗）は、中継カメラに向かって

「あいつは犯人じゃない。」「ちゃっちゃと逃げちまえ。」と言っている。すでに結婚し子供がいる樋口も、青柳を真犯人ではないと信じて逃亡の手助けをする。

青柳に感情移入して観ていた私は、無条件に信頼してくれる人間の言葉を聞いて、とても幸せな気持ちになった。自分を信じてくれる人間が存在することの大切さを感じさせてくれる映画である。

連続通り魔の犯人（濱田岳）や、裏の世界の人間と思われる入院中の男（柄本明）、整形疑惑のあるアイドル（貫地谷しほり）などユニークなキャラクターも登場して、青柳の逃走劇は次々と予想外の展開をしていく。上映時間は139分と長いですが、息もつかせぬ展開の連続で飽きる暇がない。

まさにエンターテインメントといえる作品なので気軽な気持ちでご覧になってみてください。伊坂作品を同じ監督が映画化した「フィッシュストーリー」や「アヒルと鴨のコインロッカー」もおすすめである。